

[研究会報告]

小児生活習慣病対策の地域的取り組みの実際

山中 寛紀¹⁾

1) 碧南市健康を守る会 会長

碧南市は愛知県西三河の三河湾を臨む内陸南西端に位置し、衣浦港を有する人口約 72,000 人、高齢化率は約 20%で毎年ほぼ 1%ずつ上昇しており、周辺市より比較的高齢化の高いところです。市内には現在 7つの小学校と 5つの中学校があります。

この碧南市で他市にない特色ある会のひとつに「碧南市健康を守る会」があります。その歴史は古く、昭和 39 年 10 月医師会に設置された健康教育連絡協議会が発端でした。昭和 42 年夏、健康に関する問題を地域で一緒に活動したいと市の婦人会協議会から医師会に依頼がありました。そこで市内各地区（公民館など）に集まっていた市民に対し、医師会員が献血の重要性やがんの講話を行い、聴講された計 15,000 人ほどの市民に血圧測定と血液型無料判定を実施しました。これを機に同年 11 月、市民と医師会・歯科医師会・薬剤師会（三師会）さらには行政が一体となった市民ぐるみの健康づくりを目指した会：碧南市健康を守る会が正式に発足しました。当初より会長は歴代市長が努められましたが、平成 9 年度からは医師会より選出しています。設立当時 3 つの委員会しかなかったこの会も現在では 6 委員会となり、保健・医療・福祉等に関する問題について取り組んでいます。そして、この中の生活習慣病予防部会（旧成人病健診部会）の取り組みのひとつに生活習慣病若年化対策があります。これは昭和 60 年市内の全中学校 1 年生の希望者を対象に行ったもので、血圧測定などそれまでの項目に貧血検査を加えたもので、その受診者がほぼ 100%と高率であったことから、昭和 63 年から正式に市内全小学 4 年生と中学 1 年生を対象に、一般の内科健診に加え貧血や血液生化学検査を加えた健診がはじまりました。

この長年の実績が評価され愛知県学童期生活習慣病対策のマニュアルづくりの一環として、平成 20 年度から 3 年間にわたりそのモデル事業が委託されました。この事業は平成 20 年度小学 4 年生になった市内 7 小学校の全児童のうち保護者の同意を得たものを対象に、3 年間毎年同じ健診を受診していただくものです。それまで当市で実施してきた健診とこのモデル事業との一番大きな違いは、検査項目に腹囲測定や腹囲身長比・肝機能などが増えたことと、何と言っても空腹時採血で行ったことです。また事後の保健指導として健康へゴーと名付けた教室の開催や、養護教諭の先生方の多大なバックアップとしてすくすく教室を新設したことです。モデル事業への参加率は初年度 88.5%と例年に比し 10%ほど低く、次年度、次々年度は約 75%とさらに少し低下しました。

現在当市ではこのモデル事業を期に小学生のみならず中学 1 年生の健診もすべて空腹時で行い、さらに検診項目や事後の保健指導もそのまま継続していますが、その受診率は過去からのものとほぼ同等の 95%程度となっています。

今回は上記モデル事業や当市で現在実施している生活習慣病若年化対策事業について、その詳細と結果や課題等についてプレゼンさせていただきます。

最後にこの研究会で発表の機会を与えていただきました関係諸先生に深謝申し上げます。